

## —— 日食講話 (4) ——

# 歴史上に有名な日食

山 本 一 清

世界各國共に日食の記録は多い。殊に、皆既日食は、まひるが突然として夜間になつて了うほどの大事件であるから、之れを誰でも「知らなかつた」などと言つてすましてゐられるものでない。必ず此れは記憶され、又記録されて傳へられる筈のものである。近年は又、純學究的の意味に於いても日食の重要さは加はつてゐる。

下に、先づ、世界各國の歴史に残されてゐる有名な日食のリストを一覽表として掲げる。そして最近の皆既日食までを含む。——尤も、天空に於いて現實に行はれた日食現象は此の他にも非常に多い。日食そのものの一覽表として最も權威あるものは、言ふまでもなく、奥國の天文家 Th. R. v. Oppolzer オポルツァ博士が ヴァイン學士院の記念出版(天然理學部)第52卷に Canon der Finsternisse 「日月食表」として1887年に發表したものがあつて、之れは西曆紀元前1207年から同紀元2163年までの間にある全部の日食8000個と月食5200個の要素を網羅し、尚ほ皆既日食線や金環食線の略地圖を添えたもので、食學上の最大權威書であるが、下に掲げるのは、其のうち、歴史上に有名なもののみを選んだものである。

### I. 古代の日食

(皆、太陽曆日はユリウス曆で表はす)

B. C. 2137年	十月22日	〔夏書〕仲康五年、義氏と和氏豫言を怠り罰せらる。
1070年	六月22日	バビロニヤ
1063年	七月31日	バビロニヤ 「シワン」の月26日?
791年	六月24日	金環食
763年	六月14日	アシリヤのニネベ市〔アモス書8の9〕
689年	一月11日	〔イザヤ書38の8?〕
648年	四月6日	Thasos
585年	五月28日	タレス豫言す〔Herodotus 1の54〕〔Pliny 2の4の5〕
557年	五月19日	ラリサ?
431年	八月3日	ツキザデス
400年	六月21日	Ennius
310年	八月14日	カルタゴ軍のシラクサ攻撃戦中
720年	二月14日	(隱公3年二月己巳) 「春秋」所載最初の日食

- B. C. 709年 七月 9日 (桓公 3年 七月壬辰朔既)  
 695年 十月 3日 ( „ 17年 十月朔)  
 676年 四月 8日 (莊公18年 三月)  
 669年 五月 20日 ( „ 25年 六月辛未朔)  
 668年 九月 3日 ( „ 26年十二月癸亥朔)  
 664年 八月 21日 ( „ 30年 九月庚午朔)  
 655年 八月 12日 (僖王 5年 九月戌申朔)  
 648年 三月 30日 ( „ 12年 三月庚午)  
 626年 一月 29日 (文正 1年 二月癸亥)  
 612年 四月 21日 ( „ 15年 六月辛丑朔)  
 601年 九月 14日 (宣王 8年 七月甲子皆既)  
 599年 二月 28日 ( „ 10年 四月丙辰)  
 575年 五月 3日 (成王16年 六月丙寅朔)  
 574年 十月 16日 ( „ 17年十二月丁巳朔)  
 559年 一月 8日 (襄王14年 二月乙未朔)  
 558年 五月 25日 ( „ 15年 八月丁)  
 553年 八月 25日 ( „ 20年 十月丙辰朔)  
 552年 八月 14日 ( „ 21年 九月寅戌朔)  
 550年十二月 30日 ( „ 23年 二月酉朔)  
 549年 六月 13日 ( „ 24年 七月甲子朔)  
 546年 十月 7日 ( „ 27年十二月乙亥朔)  
 535年 三月 12日 (昭王 7年 四月甲辰朔)  
 527年 四月 12日 ( „ 15年 六月丁巳朔)  
 525年 八月 15日 ( „ 17年 六月甲戌朔)  
 521年 六月 4日 ( „ 21年 七月壬午朔)  
 520年十一月 17日 ( „ 22年十二月癸酉朔)  
 518年 四月 3日 ( „ 24年 五月乙未朔)  
 511年十一月 8日 ( „ 31年十二月辛亥朔)  
 505年 二月 10日 (定王 5年 三月辛亥朔)  
 498年 九月 17日 ( „ 12年十一月丙寅朔)  
 495年 七月 17日 ( „ 15年 八月庚辰朔)  
 481年 四月 14日 (哀王14年 五月庚申朔)

## II. 中世の有名な日食

(1582年まではユリウス暦、其の以後はグレゴリオ暦の太陽暦を用ふ)

- A. D. 237年 四月 12日  
 360年 三月 4日  
 418年 七月 19日 イタリヤ  
 484年 一月 14日  
 538年 二月 15日 部分食  
 540年 六月 12日 ”  
 594年 七月 23日  
 603年 八月 12日  
 628年 四月 10日 日本の最初、推古天皇36年三月2日  
 639年 九月 3日

664年 五月 1日	
733年 八月14日	金環食
764年 六月 4日	”
787年 九月16日	”
842年 十月 7日?	
878年 十月29日	
885年 六月15日	
957年 七月20日	
968年十二月22日	コルフ島にて
1023年 一月24日	
1113年 三月19日	
1133年 八月 1日	
1140年 三月20日	英國ロンドンにて見ゆ
1183年十一月17日 (壽永2年閏十月1日)	源平水島の戦中
1185年 五月 1日	
1187年 九月 4日	北歐
1191年 一月23日	金環食
1241年 十月 6日	中歐
1330年 七月16日	
1415年 六月 7日	獨佛
1424年 六月26日	
1433年 六月17日	
1485年 三月16日	スペイン
1503年 七月20日	
1530年 九月21日?	部分食
1544年 一月24日	
1560年 八月21日	スペイン
1567年 四月19日	金環食・ロマ
1598年 三月 6日	
1601年十二月24日	ノルエにて金環食〔Regiomontanus〕
1605年 十月12日	金環食?
1639年 六月 1日	” Bouillaud 観測
1652年 四月 8日	
1699年 九月24日	金環食 Tycho 観測
1706年 五月12日	カシニ観測, “光冠”を黃道光に 歸す. Stannyan 紅焰を見る.
1715年 五月 3日	
1717年 十月 4日	ハレイ 光冠と紅焰とを見る. 但し 日月の所屬不明. 米國?
1724年 五月22日	
1733年 五月13日	Vassinius 紅焰を再發見. スカンヂ ナビヤ
1737年 二月18日	金環食. 近代的観測の最初. McLaurin スコトランドにて見る.
1748年 七月25日	” 英獨

1764年 四月 1日	英 スキイデン
1766年 二月 9日	南阿
1778年 六月 24日	スペインの Ulloa 將軍 “Baily 粒”を見る。
1780年 十月 27日	米國ハイヴイッド大學遠征 “Baily 粒”を見る。
1791年 四月 3日	金環食 北米東部
1806年 六月 16日	米國
1820年 九月 7日	金環食 ノルエ 1 獨
1821年 三月 4日	スマトラ島
1831年 二月 12日	金環食 米國
1834年十一月 30日	米國

## 新刊紹介

理學士 鈴木敬信氏著 “宇宙” 東京 恒星社 ¥ 3.20

東京科學博物館の天文部主任として既に廣く知られてゐる鈴木理學士が“古代宇宙觀から膨脹宇宙説まで”各時代の天文學者が企圖したさまざまな天體宇宙觀を極めて親切に順序よく書かれたのが此の書である。四六版ながら本文 569頁、それに索引18頁を添えた堂々たるもの、内容に98枚の寫眞や圖版と、13種のモダンな表もあつて、之れが洋書ならば今どきザツト15圓も取られるのだが、僅かに3圓内外で手に入るとは日本書の有難みである。鈴木氏の文は誠に読み易く、學術語も二三を除けば極めて妥當なものを用ひ、甚だ適切である。尤も此の書は宇宙論史を主題としてゐるため、内容が實用天文學にわたつてゐないのは承知の上で讀まねばならぬ。元來、天文學の主な目的は「宇宙の研究」にある。故に此の書の内容こそは最も本格的な天文學そのものである。経緯度や時刻の研究は要するに天文學の副産物であるのだから。(山本)

## 晝間見える星

拜啓 大へん好い時候になりました。ヴェキナスも光輝いよいよ盛んになりました。私は此頃肉眼にて晝間見て居ります。昨日は午後零時半まで見ました。晝間星を見て居ると思ふと浮世ばなれがします。天文臺でも誰か見られませんか、光度負4.3等の時にはよく見えます。朝明るくなる頃から一時間位づゝ間をおいて段々西に動くのを望見するのです。午前九時半頃には南中になります。此度は何等星まで晝間肉眼觀望が可能かを知りたいと思つて居ります。

10月6日

静岡 藤田 六郎